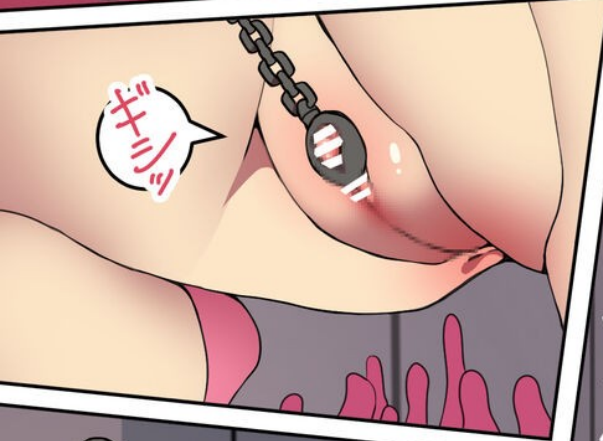
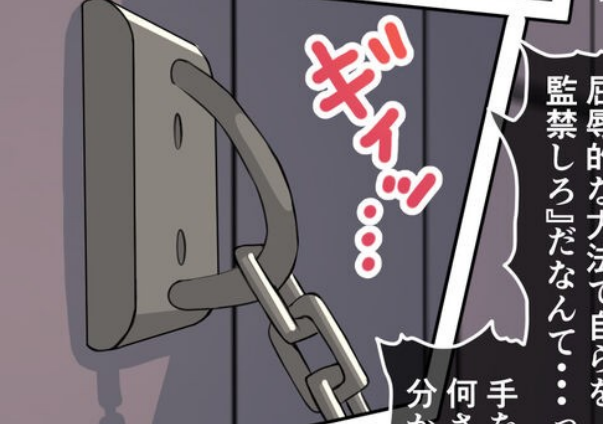


グチュ...



ギミッ



ギイッ...

んっ

『考えられる最も
屈辱的な方法で自らを
監禁しろ』だなんて...っ

手を抜いたら
何されるか
分からないし...

くっ...
逆らえないからって
こんな事させるなんて...っ

ギミッ

トロワ博士は自分で考案した
【クリトリスハンガー】によって
拘束されてしまった！
強力な吸着剤によって
普段から弄っていたクリに
金属のリングが吸い付く...

壁から伸びる鎖は床まで
届かず、座って休むことも
出来ないまま何時間も
放置される...

暫くすると床から肉塊が
染み出し、一面を覆い尽くした。
これも再生医療技術を
応用した彼女の案だ。
肌に触れると催淫成分を
吸収してしまう！

博士はつま先立ちを
強制されてしまった.....



カクッ

カクッ

監視用の
ドローンが接近する

こ……
来ないで……っ

クリリングに繋がる
鎖の電磁ロックが
外された途端、直前まで
避けていた触手床に
おまんこを擦り付ける

「く……っ
クリトリス
床オナモードに
移行しますっ」

まずい……
催淫液が
経皮吸収される……っ

トロワの体内にはナノマシンが注入されており、
「命令」をインプットされていた。
彼女は今、逃走防止のために二足歩行が
禁止されている。
ドローンと出会ったらおまんこを床に擦り付け、
後を追いつけなければならない。

肉塊床の催淫成分によっておまんこが敏感になっていく。
前に進む度に擦れて
その度に動きが止まってしまう…

こんなの…ッ

動けるわけ
ない…っ

おっ♡

おほお…♡
生温かくて…
気持ち悪い…っ♡

クチュ
クチュ
クチュ

ズッ

そろそろ始業時刻だ、
ドローンに促されたトロワは
ナメクジのように床を這いながら
くねくねと後をついていく…

毎日こんなこと
させて…
全て終わったら
覚えてなさいよ…っ

はあ…あっ

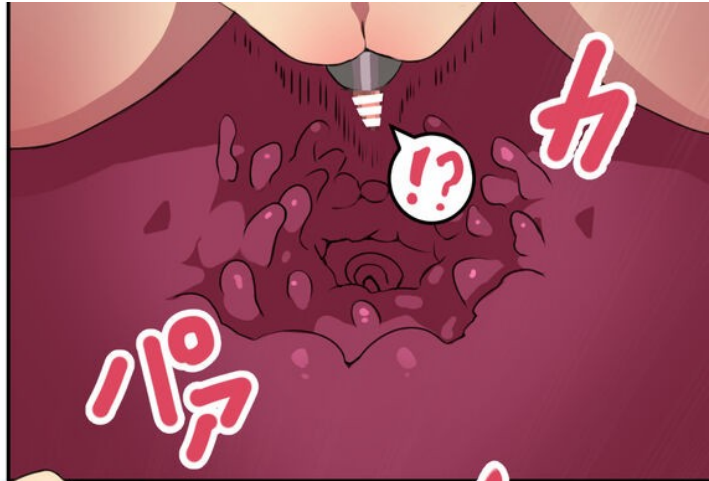
や…んっ

クネ

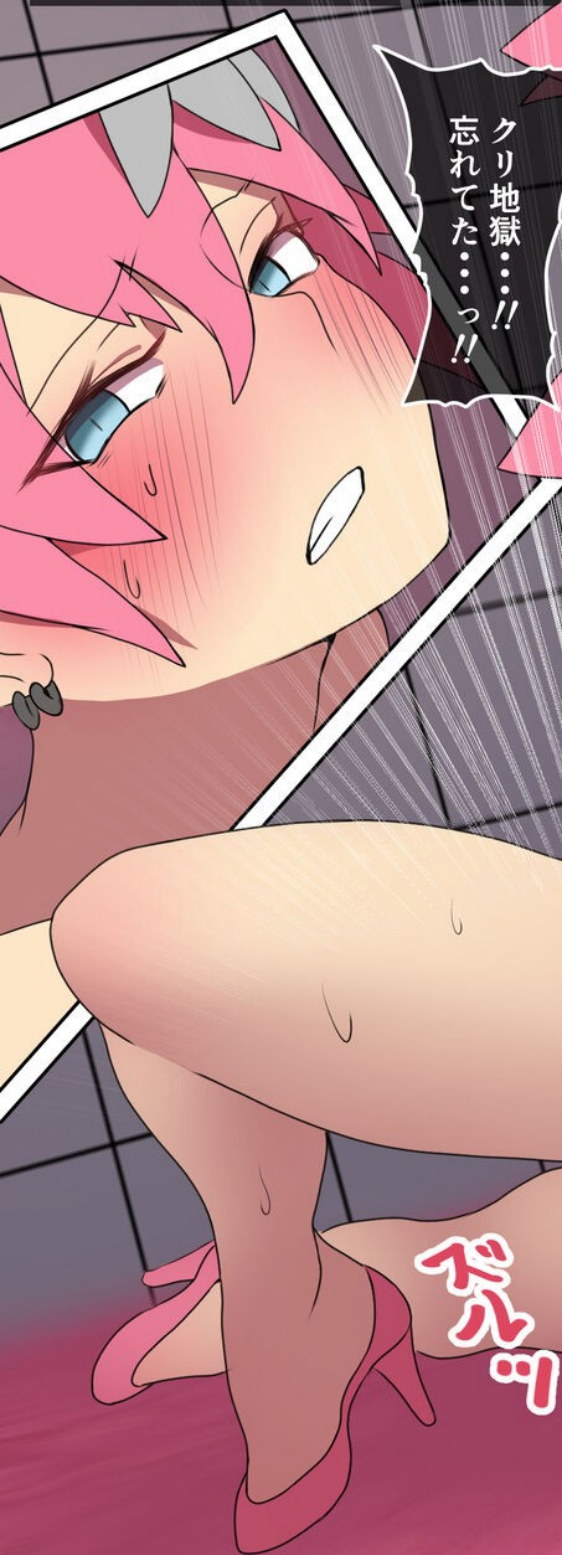
ズッ

ズッ





触手床に穴が空いて
クリトリスを吸い込んだ!!
強烈な吸引によってクリを
根本から引き抜かれるような感覚に
襲われ、堪らず絶頂してしまう...



ナノマシンによる命令が行動を制限して
本気で抵抗することが出来ない...
事前にインプットしていた
一番好きなクリトリスの触られ方で
3回絶頂したのち解放された...

scene2:寸止めプリズン

ふん…
降ろすならさっさと
降ろしなさいよ…



フレームの
降下を開始します

(期待勃起乳首)

ドキ
ドキ

ドキ

ワイイン

あっ
いきなりは

んっ…!!

クリトリスが
内側の溝に沿って
誘導されて…っ

あっ…ストップ!!
待って待って待って!!

研磨開始

ひいっ!!
止めてっ
止めてえっ!!



「クリトリスプリズン」に
拘束されてしまった!!
内側は摩擦力の高いゴム素材のため
クリを引き抜くことが出来ず、
先端は回転ゴムによって絶頂できない
ギリギリの圧力で研磨され続ける…。

拘束から1時間経過

身動きが取れないまま
トロワは寸止め調教を
受け続けていた。

快感指数が99%になると
自動的に回転装置が
停止してしまう。

「ああもうっ・・・!!
こんだけ効果を試したら
充分でしょ・・・っ!!」

お預けされる度に
トロワは身体をくねらせ、
期待で硬くしこり立った
クリトリスを突き出し、
愛液を滴らせてしまう。

96

Pi

Pi

97%

Pi

98%

あっ

99%到達
装置を停止します

今度こそ……
あと少しで……!!

ああっ!!?
そんなっ

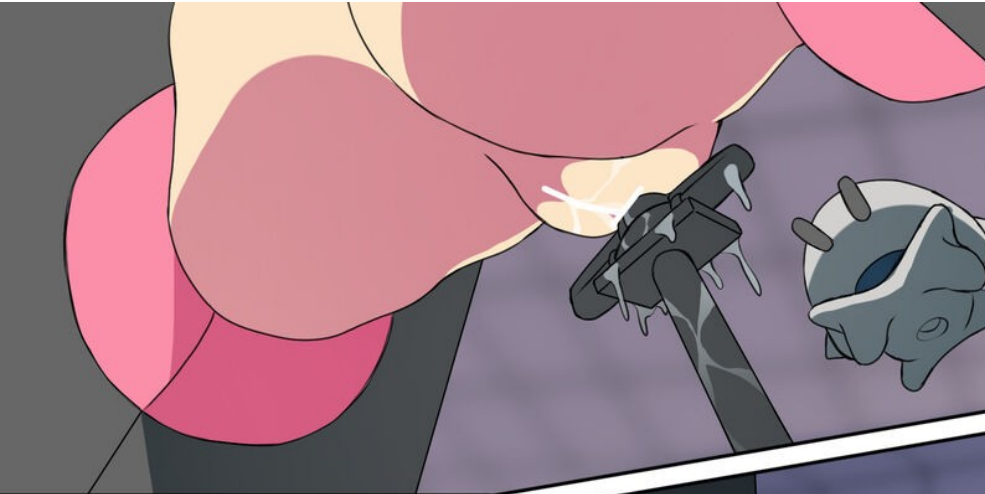
さっさとイかせ
なさいよお……っ

いやあっ

フシッ

99

99



寸止めに耐えきれず愛液の涙を流す
おまんこにドローンが近付く...

次のテストが
始まるようだ

「まったく…
女の子の身体を
何だと思ってるのよ
……っ」



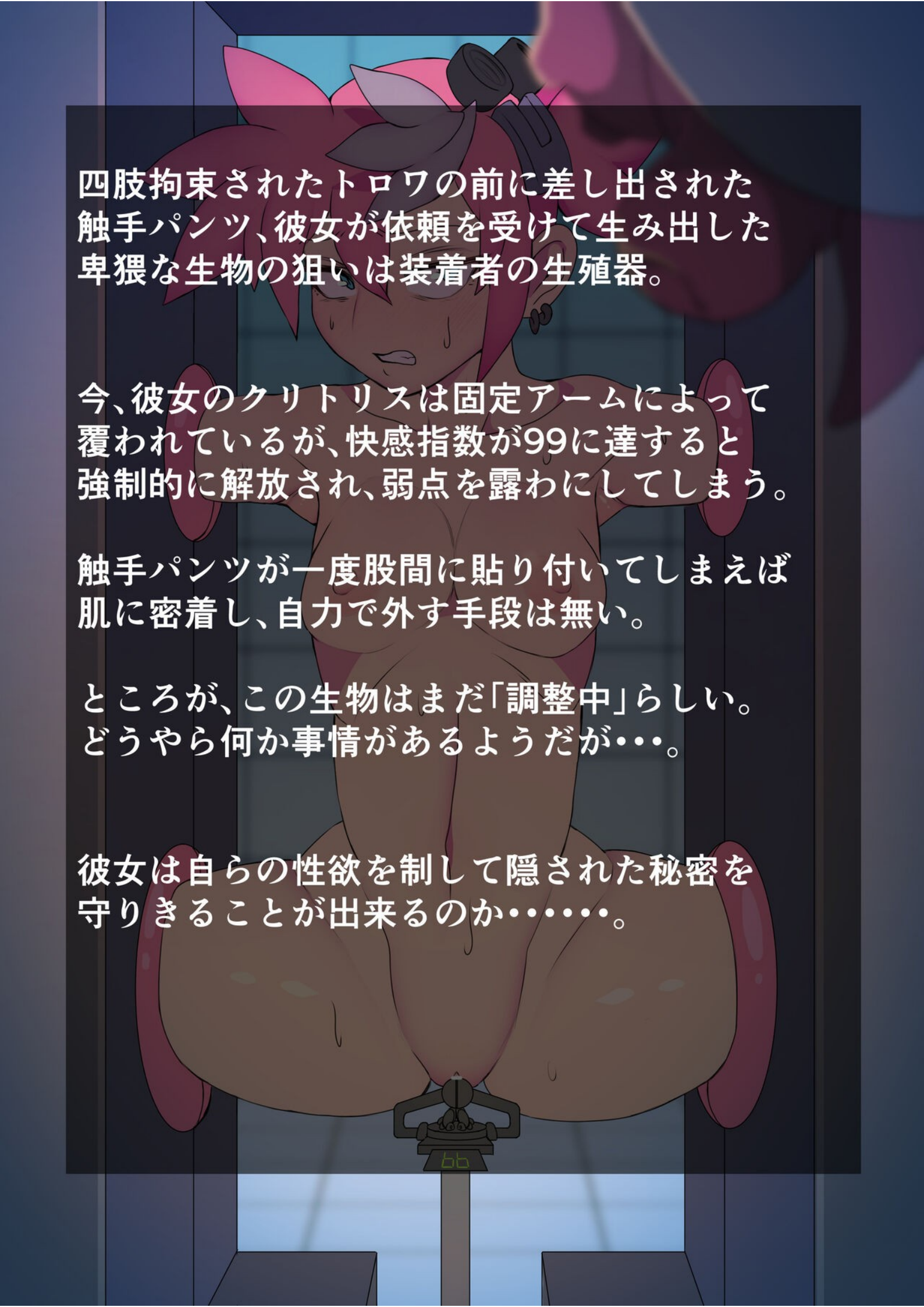
彼女がそう言った途端
装置のディスプレイに表示された
快感指数が99%まで急上昇する。

おまんこの期待に
応えるように
ドローンの腹部から
触手のようなものが
顔を出すと
トロワ博士は焦り始める。

「待って…!!
その触手はダメッ!!
まだ調整中で
刺激が強すぎるのよっ!!
絶対に股間に
貼り付かせないでっ!!」



「ッ…!!
こんな時に……っ」



四肢拘束されたトロワの前に差し出された
触手パンツ、彼女が依頼を受けて生み出した
卑猥な生物の狙いは装着者の生殖器。

今、彼女のクリトリスは固定アームによって
覆われているが、快感指数が99に達すると
強制的に解放され、弱点を露わにしてしまう。

触手パンツが一度股間に貼り付いてしまえば
肌に密着し、自力で外す手段は無い。

ところが、この生物はまだ「調整中」らしい。
どうやら何か事情があるようだが…。

彼女は自らの性欲を制して隠された秘密を
守りきることが出来るのか……。

(どうしよう…
触手パンツを穿かされたら
自力では脱げないし…っ)

(なんとか
この状況を切り抜けないと…っ)





(あの触手パンツは調教アイテムに見せかけたナノマシン中和装置…)

(装着したら体内のナノマシンをこっそり吸い出して身体を自由を取り戻すつもりだったんだけど…しょうがない……)

そっ…

その子はまだ成長途中だから
使えないよ

人間のオスとメスの区別が
ついていないから
ボクに穿かせてたらバグって
壊れちゃうんじゃないかな



(クリトリスとペニスの区別が
つかないから

ナノマシンを排出させるために
永遠にクリトリスを射精させようと
してくるんだよな……)



(だから壊れるのは
どちらかというと穿かされる
ボクの股間の方なんだけど……)

へっ!?
本当は穿いてみたいんじゃないかって?

ボクは貴方達に
言われて仕方なく協力してる
だけなんだよ?
モニターの快感指数も
下がってるでしょう?



ああっ!?

(ま...まずいっ♥
責められる想像したせいで
快感指数が振り切って...ッ)

ウィー—ン

99



(くっ…)

こうなったら
耐え切るしかない…!!

(反応しなければ
諦めて
すぐに脱がせるはず…)



ほ…ほらねっ
大人しいままでしょう？

このテストは
終わりにして
一旦休憩に……



んんっ
♡♡

んっ...!!

おエウッ

おエッ



(や・・・やばいっ
さっきまで寸止めされてたせいで
パンツ越しでもわかるくらい
クリが勃起してるっ)

(くそっ・・・・・・・・!!
身体を揺さぶったくらいじゃ
引き剥がせないの・・・っ
自分が一番わかってるのに・・・!!)





い...いく...っ!!

クリ...弄り方が

えっちすぎる...っ♡

くっ...!!

ふっふっふ...♡♡♡

シュッ
シュッ
シュッ

エエッ

イクっ……!!

ポコッ





はあ……
はあ……っ

ッ!?
また扱き始めてっ…!!

だから…っ
そこはおちんちんじゃないから
出ないって…!!



あっ……

っ……



ちっ違う……っ
騙してたわけじゃ……っ

えっ……
暫くこのまま
反省しろって……
そんな……っ



ま…待って!!
嘘ついてごめんなさい!!

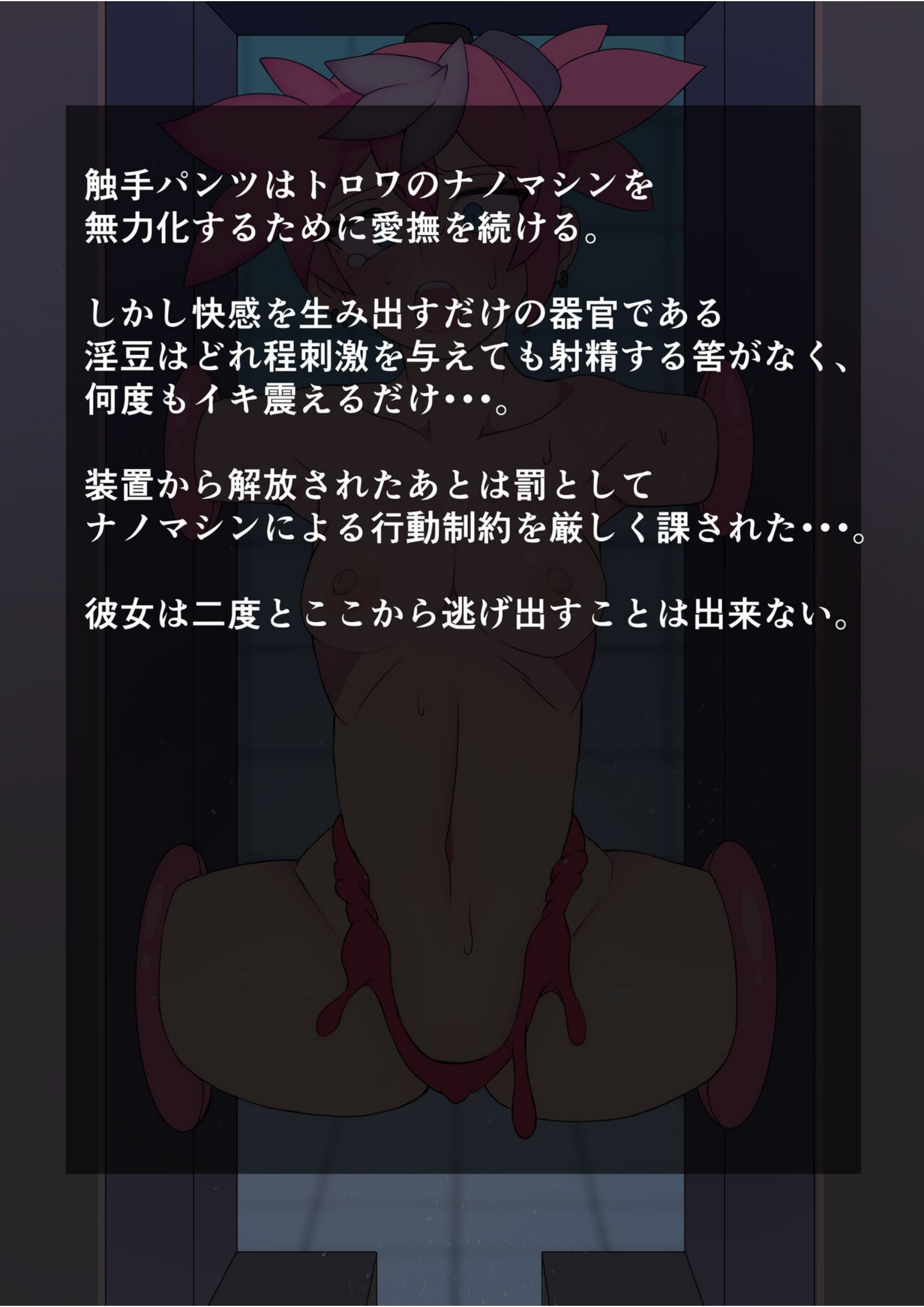
もっと良い装置を作るから
許して…っ!!



いやああっ!!

んやう...





触手パンツはトロワのナノマシンを
無力化するために愛撫を続ける。

しかし快感を生み出すだけの器官である
淫豆はどれ程刺激を与えても射精する筈がなく、
何度もイキ震えるだけ…。

装置から解放されたあとは罰として
ナノマシンによる行動制約を厳しく課された…。

彼女は二度とここから逃げ出すことは出来ない。